

# 海外学生派遣事業 実績報告書

所属：文化科学研究科 比較文化学専攻

氏名：吉村 健司

海外派遣先国：マーシャル諸島共和国

海外派遣先大学：アレレ博物館

海外派遣期間：2010年8月27日～2010年9月27日

報告年月日：2010年9月28日

## 【派遣先について】

本事業では、マーシャル諸島共和国のアレレ博物館に籍を置き、調査を実施した。アレレ博物館ではエグゼクティブディレクターのNewton Lajuan氏に便宜を図っていただいた。アレレ博物館はマーシャル諸島で唯一の国営の博物館である。30分程度で全てを見終えてしまえるほど規模は小さいが、第二次世界大戦の資料、航海術および漁業に関する貴重な資料が展示されているほか、Pacific Collection というアーカイブスが充実している。博物館には図書館も併設されている。

## 【海外派遣前の準備】

博士論文を進めるために、第一にマーシャル諸島の漁業の現状を知る必要があった。マーシャル諸島では国内の漁業統計資料等は不十分で参考となるものが少ない。そういったなかで、伝統漁業に関しては内務省・歴史保存局とアレレ博物館から2004年に発行された*Traditional Fishing Technique in Marshall Islands*に最も詳細な記述があるが、この出版物は1960年代に記録された漁法を中心に構成されており、現代の状況を知るには不十分であった。一方、マーシャル諸島において、漁業を管轄している海洋資源局においても、現在のマーシャル諸島で確認されている漁法についての情報は、ほとんど存在しない。したがって、現時点でいかなる漁法が存在しているのか、という基礎的データの作成が急務であった。そこで、本事業では博士論文の対象地であるジャルート環礁において現時点で見られる漁法について、基礎データを得ることが最大の目的であった。

また、その一方で2000年よりJICA（国際協力機構）によって行われたジャルート環礁漁村開発計画についての現状把握も調査ポイントとして挙げられた。

## 【海外派遣中の勉学・研究】

今回の事業について、受け入れ先のアレレ博物館は、研究の内容についてのアドバイスはいただいたが、特に規制されるものはなかった。むしろ、積極的に調査に積極的に協力していただいた点に感謝する次第である。

本来の調査スケジュールが大幅に狂ってしまいジャルートでの調査については満足のいくものではなかった。しかし、Newton氏の計らいもありアルノ環礁であればいつでも調査可能となった。現地ではNewton氏の実家があるため、そこでのホームステイもさせていただけることになった。

また、今回の派遣中に実際にアルノ環礁で調査ができたことは、ジャルートとの比較を行ううえで実に興味深いデータも出てきたことは、不幸中の幸いであった。

### 【研究以外の活動】

今回はトラブル続きで、本来ジャルート環礁に渡る日が1週間遅れてしまった。そこで、年1回マーシャル諸島で開催されるフィッシングイベントである All Micronesia Fishing Tournament を見学することができた。このイベントはマーシャル諸島を始め、ミクロネシア連邦、アメリカ、オーストラリア、日本、台湾などの国からマーリン（カジキマグロ）の釣獲を目指して数多くの参加者が訪れる。大物のマーリンが計測器に上がったときは、私も含め会場のボルテージは一気に上がる。今大会の優勝チームが引き揚げたのは 444lbs (201 kg) のマーリンであった。

### 【海外派遣費用について】

特に費用の問題は出なかった。ただ、ジャルートまでの航空券の値上がりや、急遽、アルノ環礁へ行く事になったために、想定外の出費がいくつかあった。

### 【海外派遣先での語学状況】

マーシャル語は必須であったが、まだ会話をこなすほどのレベルには達していない。しかし、マーシャル諸島では英語は公用語ということもあり、多くは英語でコミュニケーションを図ることができた。



ジャルート環礁

### 【海外派遣先で困ったこと】

今回はトラブル続きであった。まずマーシャル諸島入国直後にコンタクトとるはずであった受入の Newton 氏が所用で離島に行ってしまったこと。結局、会うことができたのは翌週になった。

その間、アルノ環礁に行くことができたが、そこでは蚊の被害が甚大で、後のジャルートでは傷が悪化してしまい、歩くことさえままならなかった。ジャルート滞在は、当初6週間の予定を組んでいた。しかし、トラブルにより2週間の滞在しかできなくなった。実際、ジャルートに行くと、またタイミングの悪いことに島には全ての燃料が尽きてしまっており、島ではほとんど漁が行われなかった。また、燃料が尽きることを想定しておらず、その対策をしていなかった申請者は1週間で島を引き揚げざるを得なかった。



ジャルート環礁のフィッシュベース（漁業基地）

調査は基礎データの把握という点については一定の成果を得ることができたが、全体的にはトラブル続きで満足いくものではなかった。申請者はこれまで、日本国内のフィールドを対象としてきた。調査フィールドを海外に移しての初めての本格的な調査であったが、海外調査の難しさを、今回の事業を通じて感じる事ができた。

これまで治安の良いとされてきたマーシャルでは空き巣や強盗などの発生はほとんど聞かれなかった。しかし、ここ 2 年ほどで被害が増えてきたようだ。実際に、私もマジュロ滞在中に空き巣に入られて調査道具を数点盗まれてしまった。平和そのもののように感じたマーシャルであったが、このような現実が増えてきていることに少なからず悲しみを覚えてしまう。